

庭木に適した富山ゆかりのサクラ ～フタカミザクラ～

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村正史

庭木に適したサクラについては本誌181号で、本県ゆかりのサクラで庭木に適した栽培品種を本誌206号で、それぞれ紹介しました。

今回は、本県の二上山で発見されたフタカミザクラ(写真1)を紹介したいと思います。

なお、植栽時及び植栽後の注意点は本誌181号を参照してください。

1 発見の経緯

1970年にサクラの研究者として有名な長基健治氏と船津金松氏が高岡市の二上山で野生のサクラを調査中に発見した品種です。

このサクラの学名は*Prunus* 'Kamoana' ですが、栽培品種を示す 'Kamoana' は、発見者らと親交が深く、タカオカコシノヒガンの保護・育成への尽力で有名な加茂善治氏に献名されたものです。

本来ならばフタカミザクラと命名されるべきところでしたが、発見者は県外の方でしたので、二上山を「ふたかみやま」と理解されていたようで、フタカミザクラと命名されました。少し違和感がありますね…。

2 特徴

発見当初は富山県西部の山野に多く自生している野生種のキンキマメザクラの花が八重化したものと考えられていましたが、現在ではキンキマメザクラとヤマザクラが関係した雑種であると考えられています。

花は直径3cmほどと可憐で、花弁はごく淡いピンク色です(写真2)。がく筒がとても細長く(写真3)、木や花が小型である点は野生のキンキマメザクラに似ていますが、フタカミザクラは花弁が10枚前後と八重咲きであることが大きな特徴です。

なお、富山県中央植物園内の「富山県ゆかりのサクラ」コーナーに植栽されているフタカミザクラから採取された酵母でお酒やパンが作られています。

写真1～3は2016年4月10日に富山県中央植物園で撮影したものです。



写真1 フタカミザクラ



写真2 フタカミザクラの花



写真3 フタカミザクラの花柄とがく筒(矢印)